

東京都個人タクシー協会

会報

乗って安心個人タクシー



平成23年
2月号

平成23年新年賀詞交歓会

個人タクシーの存在意義の確立を

1月17日(月)の午後4時から、ホテルグランドパレス「白樺の間」で、約130名の関係者が出席し、平成23年新年賀詞交歓会が開催されました。その冒頭に行われた、木村会長と来賓の方々のご挨拶をご紹介します。

私たちの存在意義が問われる年

(社)東京都個人タクシー協会会長

木村忠義

タクシーの供給過剰という状況下で、昨年は個人タクシーの新規参入が抑制され、東京だけで600台が減車しました。その様な中で、個人タクシー最大の課題は、事業者の資質向上と言えます。

マスターズ制度も参加者が81%を超え、これからは参加率から内容の充実、つまり質の高いマスターの実現へとシフトしていくでしょう。また今年、特定事業計画の確実な実施が求められる年でもあります。



が、個人タクシーの存在意義が問われる年、さらに意識改革を進めましょう。

優良乗り場と羽田空港での活躍に期待

関東運輸局自動車交通部長

小林 豊氏

減車に向けた法人業界の取り組みのお陰で、ここ数カ月、タクシーの業績が対前年比でプラスという状況が続いています。一方の個人タクシーの皆様には、特定事業計画の実行の年となりますが、さらに2つお願いがあります。

一つ目は優良タクシー乗り場のさらなる活用、二つ目は国際化した羽田空港への入構です。優良乗り場で個人タクシーを待つているお客様のニーズに、さらに日本の玄関口でもお客様に喜んでいただきたい。そしてこれらを



通して、個人タクシーの存在を示していただきたいと思えます。

プロドライバーとしての模範を

警視庁交通部交通総務課長

檜垣重臣氏

皆様方のご協力もあって、昨年、交通事故の発生件数が10年連続で減少しました。しかし死亡事故は、一昨年より10人増えて215名。今年は「交通事故死者数 チャレンジ・アンダー200」を新たなスローガンに掲げ、事故を1件でも、犠牲者を1人でも減らすように取り組んでいきます。

高齢者、自転車、自動二輪車の犠牲者が多く、交差点での事故が多発していますので、特に気をつけてください。皆様方にはプロのドライバーとして、全ての運転者に



模範を示してください。模範を示していただくよう期待をしております。

互いの繁栄を目指して

(社)東京乗用旅客自動車協会

副会長 三浦宏喜氏

法人タクシーは昨年、皆様のご協力によって何とか6000台近く減らす事が出来ました。これで景気が回復すれば良いのですが、なかなかその見通しが立ちません。もはや減車だけでは限界があります。原会長は「法人と個人は戦友の間柄だ」とよくおっしゃっていました。

今後も法個連絡会議などを通じて皆様と意識を共有し、現状を打開し、お互いが繁栄する様に頑張りたいと思いますので、よろしくお願いたします。



都内個人タクシーの現況 (平成23年1月1日現在)

許可事業者数	16,950名 (前月比-55名)		
(特別区、武三)	16,469名	北多摩188名	南多摩293名
傘下事業者数	16,751名 (前月比-53名)		
(特別区、武三)	16,273名	北多摩188名	南多摩290名

平成22年度協会会長表彰

お客様や歩行者を守る気持ちを持つ

1月17日(月)に行われた新年賀詞交歓会の席で「平成22年度協会会長表彰」が行われました。今年の表彰は39名。代表として、東京都個人タクシー協同組合野方支部の長谷川洋さんが表彰を受け取りました。

表彰を受けた長谷川さんは「日頃から、自分なりに、防衛運転と呼ぶ運転を心がけています。安全運転が交通法規やマナーを守る事だとすると、防衛運転とは、自分やお客様、歩行者、場合によっては他の運転者を守る運転で、とにかく危険な事を避けることが基本です。一方では、長年使っている営業車は、他車と並ぶとどうしても見劣りがするの

守っていききたいと思えます」と喜びの言葉で語っていただきました。

交通被害者援護賛助金を贈呈

新年賀詞交歓会の席で、(社)東京都個人タクシー協会から、(財)自動車事故被害者援護財団に対して賛助金を贈呈しました。交通運輸関係の事業を営む事業者の集団として、交通事故被害者への関心や援護の気持ちを賛助金に託して、毎年行われているものです。

当日は木村会長から、自動車事故対策機構東京主管支所の石橋廣支所長を通じて贈呈。財団からは「自動車事故被害



木村会長より表彰を受ける長谷川さん

事を続けるられるのは、先輩達が道を切り開いてくれたお陰。この受賞を励みに、これからも個人タクシーの良き伝統を



石橋支所長から感謝状を受ける木村会長

者への援護業務に深いご理解を示され、今回も多大なご援助を賜りました」との感謝状をいただきました。

第7回 理事会の 焦点

特定事業計画の実施を求められる年。まず危機意識の共有を目指そう

議題

- ① (社)都個協事務所の移転日に関する件
- ② 「意見交換会」(関東支部主催)に関する意見・要望事項に関する件

1月17日(月)の午後2時30分から、ホテルグランドパレス「牡丹の間」で平成23年最初の理事会が開催され、冒頭に木村会長から挨拶がありました。

「法人業界は大変な努力の結果、減休車の数を昨年10、11月ごろに、ほぼ当初の目標に近い17.5%を達成するところまでできました。一方の個人業界は、特定事業計画について、3月にフォローアップの地域協議会で進捗状況を示さなければなりません。特に昨年12月初旬、その一環である「短距離客歓迎」のステッカーを貼っている車をほとんど見かけないと行政から指摘を受けました。まだ日個連さんのデータがそろっていませんが、現在、東個協では1万台のうち2000台が貼っていないという状況ですので、3月の地域協議会では改めて行政から指摘をされるかもしれません。協議会を良い形で乗り越えるために、どうか危機意識をもつて徹底的に取り組んでいただきます。



「危機意識を持って、しっかりとやっていきたい」と挨拶をする木村会長

きたい。また、法人さんの減休車を受けて、昨年末(10～1月)の輸送実績が一昨年末に比べてどの位上向いてきたのかを検証しているところです。個人業界にもそのデータをまとめて提出してほしいとの要請がありました。確定申告などで忙しい中ですが、各支部・組合にはデータの集約をお願いいたします。この結果も、3月の協議会で検証されることとなります。難しい局面が続きますが、それはそういう時代になってきたという事です。10年前、20年前と同じような気持ちでいると、とんでもない事になります。私達が現状をきちんと伝えることで、事業者の皆さんに危機意識を持っていただかなければなりません。そして、双方の意識のかけ離れを埋めて危機意識を共有していかなければ、個人タクシーの未来はありません。しっかりとやっていききたいと思えますので、平成23年、どうかよろしくお願いたします」。

挨拶に続いて議題審議が行われ、2件の議題が原案通り可決承認されました。

※(社)都個協事務所の移転日は2月17日(木)です。

「個人タクシー利用者感謝の日」キャンペーン お客様に感謝の気持ちを込めて 抽選会で625名の当選者が決定

昨年12月1日から21日までの3週間に渡って行われた「個人タクシー利用者感謝の日」キャンペーンは、多くの事業者の協力により、成功裏に閉幕。1月17日(月)に、1万5267名の応募者から当選者を選ぶ抽選会が行われました。

「個人タクシー利用者感謝の日」キャンペーンは、利用者に日ごろのご愛顧に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、マスターズ制度の推進とPR、さらに全般的なサービス向上、そして個人タクシーのイメージアップを目的として毎年末に開催されています。今回は昨年12月1日から21日にかけて行われました。

運輸支局の矢田淑雄支局長等にもご参加いただき、さらに関東支部の副支部長、各県協会会長なども出席され、午後3時30分に始まりました。時間の都合から、当日は「マスター賞」と「ふたつ星賞」のみを抽選を行いました。

今回の応募総数は1万5267通。応募ハガキの入ったプラスチック箱に、抽選参加者が手を差し入れて次々にピックアップ。当選者の氏名とともに、当選者

をお乗せした事業者名とその支部名が読み上げられる度に、声が上がります。和やかな抽選風景となりました。

「不要論」さえ言われる個人タクシーがその存在意義を回復するには、利用者の支持が不可欠です。それには、マスターズ制度を中心とする接客サービスの向上はもちろん、その取り組みを広く社会に認知していただかなければ

なりません。本キャンペーンは、その貴重な機会。次回も、全事業者が一丸となって取り組みましょう。



抽選を行う木村会長

事会と同じ、ホテルグラインドパレス「牡丹の間」、関東運輸局自動車交通部の小林豊部長、同旅客第二課の星野朗課長、そして東京



抽選を行う矢田支局長

をお乗せした事業者名とその支部名が読み上げられる度に、声が上がります。和やかな抽選風景となりました。



抽選を行う小林交通部長

なりません。本キャンペーンは、その貴重な機会。次回も、全事業者が一丸となって取り組みましょう。

キャンペーン応募状況

応募用紙配布方法	東京都	他地域	合計
マスターズ制度参加者(応募用紙)	9,914名	3,473名	13,387名
普通はがき、封書等	1,394名	486名	1,880名
合計	11,308名	3,959名	15,267名

■当選賞品と当選者数

- ★マスター賞 40型液晶テレビ(10名)
- ★ふたつ星賞 32型液晶テレビ(15名)
- ★ひとつつ星賞 500円クオカード(600名)

計報

*12月

氏名	所属団体	享年	病名
光永正也さん	(東個協・新宿)	60歳	食道癌
佐々木正光さん	(東個協・世田谷第二)	60歳	胃癌
中村俊一さん	(東個協・練馬)	67歳	心不全
藤森博さん	(東個協・新東京)	67歳	肺癌
高野茂雄さん	(東個協・新東京)	60歳	咽頭痛
竹澤保さん	(東個協・城南)	63歳	肝臓癌
眞庭忠愛さん	(都営協・朋友)	67歳	胆嚢癌
白井政直さん	(全個人)	39歳	静脈瘤破裂

ご冥福を心よりお祈り申し上げます

優良タクシー乗り場の増設について

2月1日(火)から、左記の通り2カ所について運用を開始しました。優良タクシー乗り場の積極的な活用と、円滑な運用にご協力をお願いします。

■運用開始日時

- ①上野駅正面口タクシー乗り場
平成23年2月1日(火) 午前10時から
- ②渋谷駅西口前タクシー乗り場
平成23年2月1日(火) 午前10時から

■入構可能車両

- ①東京タクシーセンターの優良運転者表彰を受賞した運転者で、優良運転者章を表示する法人タクシー・個人タクシー車両
- ②優良ランク事業者(AA・A)に所属する運転者で、AAランク及びAランクである旨を証するステッカーを車両の指定場所に貼付し、優良タクシー乗り場入構証を掲出している法人タクシー車両
- ③優良個人タクシー事業者認定制度の最高位「マスター(みつ星)」であることを表示する個人タクシー車両

★入構のお願い★

今回の新設により優良タクシー乗り場は9カ所となりましたが、現在、入構事業者が少ないことから、個人タクシーのより一層の評価向上を図るためにも、マスター事業者、優良運転者表彰受賞事業者は、積極的な入構と環境美化について特段のご協力をお願いします。

タクシーセンターの街頭指導計画

指導計画

■2月

【重点指導地区】

- ①銀座・新橋地区における違法行為の防止指導及びタクシー乗り場等適正運営推進制度規制無視の防止指導
- ②渋谷駅周辺における違法行為の防止指導及び乗り場周辺の交通安全業務
- ③上野駅周辺における違法行為の防止指導及び乗り場周辺の交通安全業務

■3月

【重点指導地区】

- ①銀座・新橋地区における違法行為の防止指導及びタクシー乗り場等適正運営推進制度規制無視の防止指導
- ②新宿駅周辺における違法行為の防止指導及び乗り場周辺の交通安全業務

特別公開指導

■2月

①日時

2月25日(金)

22時00分～翌1時00分まで

②場所

銀座地区・新橋地区

③指導内容

違法行為の防止指導及びタクシー乗り場等適正運営推進制度規制無視の防止指導。

■3月

①日時

3月25日(金)

22時00分～翌1時00分まで

②場所

銀座地区・新橋地区/新宿駅周辺

③指導内容

違法行為の防止指導及びタクシー乗り場等適正運営推進制度規制無視の防止指導。

◆新宿駅周辺

違法行為の防止指導及び乗り場周辺の交通安全業務。

東京ぐるり支部紹介 ● 第30回 ●

東京都個人タクシー協同組合 渋谷支部
(所在地:渋谷区恵比寿西)

法人時代からの人間関係が風通しの良い支部を育てた

恵比寿駅に近い渋谷支部。近隣の法人タクシー会社の多くは郊外へ移転しましたが、先輩・後輩・友人の人間関係をツテに同支部を目指す人は多く、新人の発掘は順調です。譲渡譲受も的確・活発で、支部員は現在198名。昨年から1名しか減っていません。

法人時代からの縁で支部員同士のつながりが強く「支部員が孤立していないことが、最大の特徴でしょう」と櫻井支部長。風通しの良い風土から意識の共有も進み、マスターズ参加者は94.9%、禁煙率も96.5%とハイレベル。お互いの顔が見えているからこそ、皆に迷惑はかけられない、だから事故や違反も少ない。結果として「何事も無い日こそ最良の日」と支部長は言います。



前列左から櫻井支部長、石倉副支部長
後列左から大津副支部長、石井理事



事務員のみなさん



恵比寿駅から徒歩約5分の所にあるビル3階に支部はあります



JR恵比寿駅西口には「えびす像」があり、待ち合わせ場所としても有名です

なんでもトピックス

地域のおすすめスポットやクラブ活動、名物ドライバーなどなんでもご紹介

テレビ出演した記憶の達人!

川口政則さんは、記憶の達人。74カ国語で「ありがとう」と言う事ができ、歴代天皇、アメリカ歴代大統領、世界202の国名などを暗唱。この裏技で、テレビに出演したこともあります。

